

平成28年度

中学校ブロックジョイントプラン

—小中一貫教育推進計画—

【小中一貫教育校(施設分離型)】

- | | |
|-------------|----------------------|
| ○宇治中学校ブロック | (菟道小・菟道第二小) |
| ○北宇治中学校ブロック | (小倉小・北小倉小) |
| ○槇島中学校ブロック | (槇島小・北槇島小) |
| ○西小倉中学校ブロック | (南小倉小・西小倉小) |
| ○西宇治中学校ブロック | (神明小・伊勢田小) |
| ○南宇治中学校ブロック | (西大久保小・平盛小) |
| ○広野中学校ブロック | (大久保小・大開小) |
| ○東宇治中学校ブロック | (三室戸小・南部小・岡屋小) |
| ○木幡中学校ブロック | (木幡小・御蔵山小・笠取小・笠取第二小) |

【小中一貫校(施設一体型)】

- | | |
|------------|-------|
| ○黄檗中学校ブロック | (宇治小) |
|------------|-------|

宇治市教育委員会

目次

○宇治中学校ブロック（菟道小・菟道第二小）	… 1
○北宇治中学校ブロック（小倉小・北小倉小）	… 3
○榎島中学校ブロック（榎島小・北榎島小）	… 7
○西小倉中学校ブロック（南小倉小・西小倉小）	… 9
○西宇治中学校ブロック（神明小・伊勢田小）	… 13
○南宇治中学校ブロック（西大久保・平盛小）	… 17
○広野中学校ブロック（大久保小・大開小）	… 21
○東宇治中学校ブロック（三室戸小・南部小・岡屋小）	… 25
○木幡中学校ブロック（木幡小・御蔵山小・笠取小・笠取第二小）	… 29
○黄檗中学校ブロック（宇治小）	… 33

平成28年度 宇治中学校ブロック ジョイントプラン

一 小中一貫教育推進計画

宇治市立 宇治中学校 校長 南 享
宇治市立 菟道小学校 校長 今西 義右
宇治市立 菟道第二小学校 校長 荻野 修司

小中一貫教育コーディネーター

(宇治) 中学校	氏名	藤本	いづみ
(菟道) 小学校	氏名	飯田	晴孝
(菟道第二) 小学校	氏名	山田	健

1 ブロック小中一貫教育目標・めざす子ども像

- (1) 教育目標
ふるさと宇治を愛し、未来を展望し、たくましく生きる児童生徒の育成
- (2) めざす児童生徒像
ア ともに学び、考える児童生徒
イ たくましく生きる児童生徒
ウ 笑顔を大切にす児童生徒

2 昨年度の成果と課題

- (1) 4つの専門部会（宇治学、授業づくり、外国語・英語、人権・道徳）で公開授業が実施できた。事前研究会・事後研究会が開催できたことは本ブロックにおいては大きな進歩であると考えている。
- (2) 小学生に対する中学校の体験を、説明会だけでなく、部活動体験、授業体験、生徒会本部役員への質問会など、さまざまな形で実施できた。
- (3) 小中一貫夏季研修会では、宇治中学校スクールカウンセラーが「不登校児童生徒が抱える問題」について講演を行い、共通理解を図ることができた。
- (4) 現在、第3回専門部会については日程を限定せず、個々に開催しているが、実施内容についてはより意義深いものとなるよう、精査していく必要がある。

3 平成28年度中学校ブロック小中一貫教育取組の重点（各中学校ブロックにおける重点取組）

- (1) 小中合同の授業研究（事前研・公開授業・事後研）を、人権・道徳、授業づくり、宇治学の3つの専門部で実施する。
- (2) 小学生が中学校の部活動を体験できる取組（ふるさと宇治21におけるクラブフェスティバル）をさらに推進する。
- (3) 宇治中学校ブロックの全教職員が、各専門部の取組の進捗状況を共通理解するため、合同研修会終了の度に「合同研修会のまとめ」を発行し、職員会議等で各部からの報告を行う。
- (4) 保護者・地域へのより一層の啓発を図るため、小中一貫教育の取組をホームページや学校だよりで紹介する。

4 平成28年度小中一貫教育の到達目標達成に向けての具体的取組

- (1) 中学校ブロック推進体制の工夫や充実
ブロック校長会の指導のもと、教頭とコーディネーターを要とした推進体制の充実を図る。各校の校長、教頭、コーディネーターで事務局会議を組織する。合同研修会の前には校長会の指示のもと、コーディネーター会議で立案したものを事務局会議で検討し、取組を推進していく。
- (2) 系統的・継続的な学習指導・生徒指導の充実
年度後半に、授業づくり、宇治学、人権・道徳の3つの専門部会において、公開授業研究会（事前研⇒公開授業⇒事後研）を実施する。
また、授業づくり部会においては、小学校から中学校への円滑な接続を意図し、家庭学習に対する取り組み方の共通化、授業におけるハンドサイン等の確認などを積極的に行い、「児童生徒の学力向上」に向けた取組を小・中学校協働で進める。
- (3) 中学校ブロックにおける特色ある教育活動の展開
これまで行ってきた交流授業（クラブフェスティバル、駅伝合同練習、鼓隊クラブ・吹奏楽部合同練習）の内容を精査し、より効果的な方法を検討し、実施していく。
- (4) 家庭・地域社会との連携
小中一貫教育校だより（F U T T）やホームページ等を積極的に活用しながら小中一貫の取組を紹介する。また、中学校教員が小学校に出向き、6年生保護者に対して「中学校準備講座」を開催したり、各校の学校だよりを活用して保護者や地域への啓発に努める。
中学校の学校だよりを6年生全員に配布し、中学校の様子をよく知ってもらおうとともに、各小学校の学校だよりを中学校の掲示板に掲示する。
家庭学習の手引きをクリアファイルにし、小学校1年生全員に配布する。

平成28年度 宇治中学校ブロック小中一貫教育

教育目標

ふるさと宇治を愛し、未来を展望し、たくましく生きる児童生徒の育成

めざす子ども像

ともに学び、考える児童生徒
たくましく生きる児童生徒
笑顔を大切にする児童生徒

推進組織

校長会

事務局(校長・教頭・コーディネーター)

6専門部会

成果と課題

- ・ 4つの専門部会(宇治学、授業づくり、外国語・英語、人権・道徳)で公開授業が実施できた。
- ・ 小学生に対する中学校の体験を、部活動体験、授業体験、生徒会本部 役員への質問会など、さまざまな形で実施できた。
- ・ 小中一貫夏季研修会では、宇治中学校スクールカウンセラーが「不登校児童生徒が抱える問題」について講演を行い、共通理解を図ることができた。
- ・ 現在、第3回専門部会については日程を限定せず、個々に開催しているが、実施内容についてはより意義深いものとなるよう、精査していく必要がある。

今年度の重点

- (1) 小中合同の授業研究を、人権・道徳、授業づくり、宇治学の3つの専門部で実施する。
- (2) 小学生が中学校の部活動を体験できる取組をさらに推進する。
- (3) 宇治中学校ブロックの全教職員が、各専門部の取組の進捗状況を共通理解するため、「合同研修会のまとめ」を発行し、職員会議等で各部からの報告を行う。
- (4) 保護者・地域へのより一層の啓発を図るため、小中一貫教育の取組を紹介する。

今年度の取組

- (1) 中学校ブロック推進体制の工夫や充実
ブロック校長会の指導のもと、教頭とコーディネーターを要とした推進体制の充実を図る。合同研修会の前には校長会の指示のもと、コーディネーター会議で立案したものを事務局会議で検討し、取組を推進していく。
- (2) 系統的・継続的な学習指導・生徒指導の充実
年度後半に、授業づくり、宇治学、人権・道徳の3つの専門部会において、公開授業研究会を実施する。
授業づくり部会においては、小学校から中学校への円滑な接続を意図し、家庭学習に対する取り組み方の共通化などを積極的に行い、「児童生徒の学力向上」に向けた取組を小・中学校協働で進める。
- (3) 中学校ブロックにおける特色ある教育活動の展開
これまで行ってきた交流授業の内容を精査し、より効果的な方法を検討し、実施していく。
- (4) 家庭・地域社会との連携
小中一貫教育校だよりやホームページ等を積極的に活用しながら小中一貫の取組を紹介する。また、中学校教員が小学校に出向き、6年生保護者に対して「中学校準備講座」を開催したり、各校の学校だよりを活用して保護者や地域への啓発に努める。中学校の学校だよりを6年生全員に配布し、中学校の様子をよく知ってもらうとともに、各小学校の学校だよりを中学校の掲示板に掲示する。クリアファイルを小学校1年生全員に配布する。

平成28年度北宇治中学校ブロック ジョイントプラン

— 小中一貫教育推進計画 —

宇治市立北宇治中学校 校長 松元 伸祥

宇治市立北小倉小学校 校長 藤井 宣夫

宇治市立小倉小学校 校長 伊藤 剛

小中一貫教育コーディネーター

(北宇治)中学校 職名 教諭 ◎氏名 有山 明利

(北小倉)小学校 職名 教諭 氏名 澤山 恵美

(小倉)小学校 職名 教諭 氏名 杉浦 秀隆

1 ブロック小中一貫教育目標・めざす子ども像

教育目標「質の高い学力を目指し、授業改善をすすめる」

(めざす子ども像)

- ・ 自ら考え、自発的に表現できる子 (知)
- ・ 人と地域とのつながりの中で豊かな心を育て、他を大切にする子 (徳)
- ・ 運動に親しむことにより、楽しく生活できる子 (体)

2 昨年度の成果と課題

(成果)

- ・ 新しい組織体制のもと、学力面を中心に小中一貫教育の推進が図れた。

(課題)

- ・ 学力充実を中心に小学校と中学校の連携を一層深め、より具体的な取組を行う必要がある。

3 平成28年度中学校ブロック小中一貫教育取組の重点 (各中学校ブロックにおける重点取組)

(1) 小中学校の教員が連携して学力の向上を図る。

学力向上のための方策を研究する (小中一貫の視点から、日々の授業技術の向上や学力定着のための具体的方策を探り実践していく)

☆小中9年間を見通した学びを意識し、小中合同で組織化して取り組む

①学力部 (日常的活動) …全員が所属 (チーフコーディネーター以外)

【学力分析係】

- ・ 的確な学力分析により児童、生徒の実態を明らかにするとともに、具体的な取組の手立てを提案する。

【授業改善係】

- ・ 学力向上のための具体的な授業改善策や、児童・生徒の効果的な学習方法を提案する。

【学習規律係】

- ・ 9年間を見通した目指す児童・生徒像を明らかにし、小中を通した授業ルールを明確化する

【家庭学習係】

- ・ 小中それぞれに家庭学習の確実な定着における方策を練り実施するとともに、家庭学習の方法等を明らかにする。

【特支・教相係】

- ・対象児童、生徒に対する有効な方策やアプローチ法を模索するとともに、児童、生徒の実態交流をより細かく行っていく。

②授業部（シーズンの活動）…全員が所属し全教科で授業を実施するとともに、9年間の指導を見通し小中合同で指導案を作成する。

(2) 学力部を中心に、小中一貫教育を推進する組織力を向上させる。

(3) 保護者や地域住民などに、積極的に小中一貫教育の取組や成果等を発信していく。

4 平成28年度小中一貫教育の到達目標達成に向けての具体的取組

(1) 中学校ブロック推進体制の工夫や充実

機能的な組織運営

- ・コーディネーター会議を原則月1回程度開き、調整する。
- ・企画会議を中心に原案を練り、それに基づいて各係が教職員の具体的な動きをつくり、小中一貫教育を推進する。
- ・各係会における「顧問」の設置（各小中学校校長・教頭が担当）…教頭の役割の明示

☆学力分析係…松元校長先生（北宇治中）	☆授業改善係…小槌教頭先生（北小倉小）
☆家庭学習係…伊藤校長先生（小倉小）	☆学習規律係…藤田教頭先生（小倉小）
☆特支教相係…藤井校長先生（北小倉小）	☆授業部…田中教頭先生（北宇治中）

- ・学力部会は各自がいずれかの係会に所属する。（各校の管理職が顧問として各係会に所属）
- ・授業部会は各自がいずれかの教科に所属する。研究授業は原則全教科で実施する。
- ・各部、係会で各校1名の代表者を決め、代表者が各顧問の助言を受けながら中心となって部会運営を行う。

(2) 系統的・継続的な学習指導・生徒指導の充実

9年間を見通した学習指導・生徒指導のあり方を研究する。

①学力部（日常的活動）…全員が所属（チーフコーディネーター以外）

【学力分析係】

- ・個人や学力層の経年変化にも踏み込み、学力実態における課題等を明らかにする。
- ・各校の研究推進部や他の係会との連携や指示をしながら、学力充実の具体的な取組を提案する。
- ・小学校国語の27年度の結果を受け、課題となっている単元の時数を増やす等の工夫を行うとともに、2校での小学校国語の統一化（29年度実施予定）を行う。（小小連携）

【授業改善係】

- ・各校の研究推進部や学力分析係と連携して学力向上のための具体的な授業改善策や、児童・生徒の効果的な学習方法を提案する。
- ・合同研究授業は原則、全教科で行う。

【学習規律係】

- ・9年間を見通した目指す児童・生徒像を明らかにし、小中を通した授業ルールを明確化する

- ・上記のことを念頭に、28年度はルールづくり、29年度はそれに従って実施する。

【家庭学習係】

- ・昨年度のリーフレット（家庭学習のすすめ）から発展させ、シラバスなどを含めた冊子を完成させる。
- ・小中それぞれに家庭学習の確実な定着における方策を練り、実施する。

【特支・教相係】

- ・対象児童、生徒に対する有効な方策やアプローチ方法を示していく。
- ・小中それぞれの児童、生徒の実態交流をより細かく行い、連携を図っていく。

②授業部（シーズンの活動）…全員が所属し全教科で授業を実施するとともに、9年間の指導を見通し小中合同で指導案を作製する。

(3) 中学校ブロックにおける特色ある教育活動の展開

小中合同授業研究

- ・合同授業研究に向け小・中学校教員が協働し、指導案づくり等を通して小中一貫教育の視点を持って指導方法や教材研究等の交流を行う。（合同授業研究会は北宇治中学校で実施）

学力の実態把握と分析

- ・京都府学力診断テスト、全国学力・学習状況調査等の結果を活用し、学力実態の分析を学力向上に生かす。
- ・各校の「いしずえ学習」の取組を交流し児童生徒の基礎基本の確実な習得・定着を図る。

カリキュラム作成における連携

- ・9年間を見通した年間指導計画を活用し、系統的継続的学習指導の充実を図る。
（カリキュラムの交流及び検討）

児童・生徒の交流

- ・学校行事や対外行事、地域ボランティア活動、児童会・生徒会活動を通して、児童・生徒の交流を通して、小小連携、小中連携をすすめる。
- ・小学6年生を対象にした半日入学の取組を実施する。

(4) 家庭・地域社会との連携

小中一貫教育連携ニュースの発行

- ・保護者向け小中一貫教育ニュースを学期1回程度発行し、活動内容を保護者・地域に紹介していく。
- ・他の広報紙発行等を行い、ブロック内の小中一貫教育の取組の情報発信を適切に行う。

合同講演会の取組

- ・ブロック内保護者、地域住民、教師が一堂に会し、児童・生徒の健全育成のために、何をすべきかを考える場としての合同講演会を設定し、小中一貫教育の取組を地域に根ざしたものにしていく。

家庭学習の取組

- ・平成27年度に発行した「家庭学習のすすめ」を活用し、保護者の協力を得つつ、家庭学習の時間を定着、増加させることで学力の向上を図る。

平成28年度 宇治市小中一貫教育 — 北宇治中ブロック —

【教育目標】 「質の高い学力を目指し、授業改善をすすめる」

【めざすこども像】

- ・自ら考え、自発的に表現できる子(知)
- ・人と地域とのつながりの中で豊かな心を育て、他を大切にする子(徳)
- ・運動に親しむことにより、楽しく生活できる子(体)

【成果と課題】

【成果】 新しい組織体制のもと、学力面を中心に小中一貫教育の推進を図れた

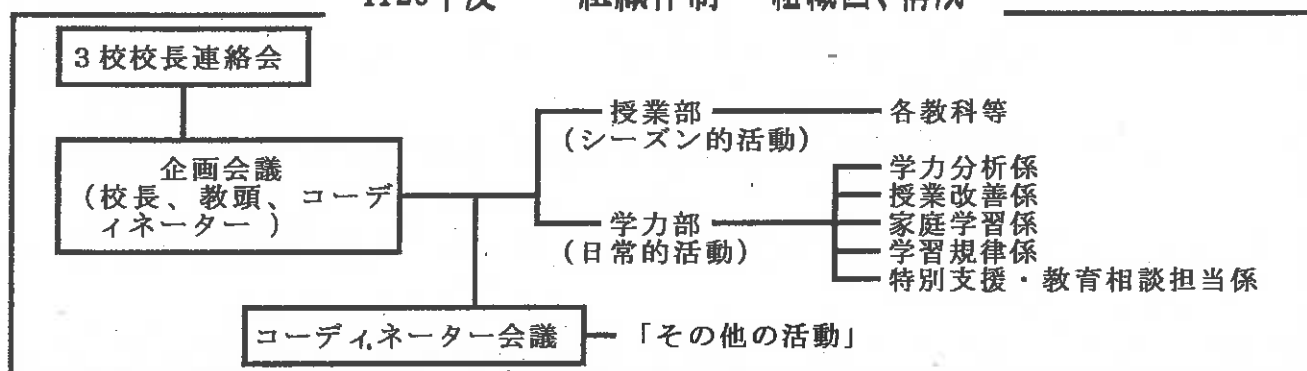
【課題】 学力充実を中心に小学校と中学校の連携を一層深め、より具体的な取組を行う必要がある

【今年度の重点】

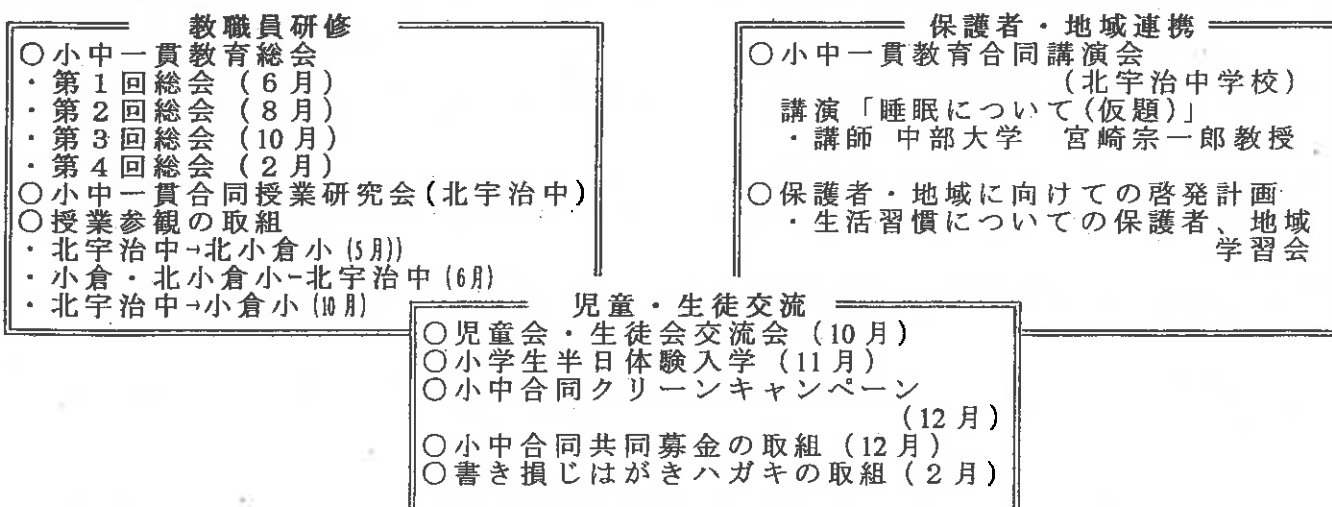
- ① 小中学校の教員が連携して学力の向上を図る
- ② 小中一貫教育を推進する組織力を向上させ、具体的な取組を考える
- ③ 保護者や地域住民に積極的に小中一貫教育の取組や成果等を発信していく

【推進組織】

H28年度 組織体制…組織図、構成



【取組の概要】



平成28年度 榎島中学校ブロック ジョイントプラン

— 小中一貫教育推進計画 —

宇治市立榎島中学校 校長 大槻 政己
宇治市立榎島小学校 校長 川合 早苗
宇治市立北榎島小学校 校長 吉永 均

小中一貫教育コーディネーター

(榎島)中学校	職名	教諭	氏名	辻本 直文
(榎島)小学校	職名	教諭	氏名	芦田 吉生
◎(北榎島)小学校	職名	教諭	氏名	坂上 敬宣

1 ブロック小中一貫教育目標・めざす子ども像

小中一貫教育目標 めざす子ども像	「豊かな人間性と未来を創造する子どもの育成」 心身共に健康で、明るく活動する子 意欲的に学び、深く考え、豊かに表現する子 地域でつながり、共に支え合い、高め合う子
---------------------	--

2 昨年度の成果と課題

- ◇各校コーディネーターが連携し、連絡・調整・共通理解を進め、取組を計画的に実施することができた。
- ◇教職員研修では、ブロックの学力分析やそれを踏まえた合同研究授業を3教科領域で実施し、児童生徒の課題に迫る研究を推進することができた。
- ◇合同研究授業については、系統的・統一的な指導のあり方を追究する機会として、継続・発展させていく。

3 平成28年度中学校ブロック小中一貫教育取組の重点(各中学校ブロックにおける重点取組)

☆榎島中学校ブロック研究テーマ

“話し合い活動(対話的な学び・主体的な学び)”をテーマにした授業作りについて

目的：話し合い活動を充実させることで児童生徒の意欲的な学習活動につなげ、授業を通して子どもの力をつけていく。

4 平成28年度小中一貫教育の到達目標達成に向けての具体的取組

- (1) 中学校ブロック推進体制の工夫や充実
「夢・未来」会議を推進の要とした組織体制の中で、小中一貫教育の取組や各部の研究実践を推進する。そのため、榎島中学校ブロック校長会、教頭会、コーディネーター会議、を定期的に行い、連携をより強化する。教職員広報を発行し、小中一貫教育推進に関わる情報を発信し、小中学校の教職員の共通理解を図りながら、取組を推進する。
- (2) 系統的・継続的な学習指導・生徒指導の充実
9年間を見通すことのできる教科の年間指導計画〔宇治スタンダード〕を活用し、児童生徒の発達の段階に応じた系統的・継続的な学習指導を推進する。
小中の接続をスムーズに行えるよう、綿密な連携や研究・研修を推進する。
- (3) 中学校ブロックにおける特色ある教育活動の展開
 - ア 小学生の中学校体験入学
中学進学への不安を解消し、中学校生活への見通しを持つために、中学校での授業体験と部活動体験を行う。
 - イ 中学生の職場体験
榎島中学校の2年生が、榎島小学校と北榎島小学校で、朝の児童の登校を迎えるあいさつや、学級での授業支援、休み時間や給食時間での児童との交流、環境整備など、様々な活動を体験する。
 - ウ 小・中学生の主張交流会
榎島中学校の「中学生の主張」学年代表と、北榎島小学校6年生の「将来の夢」学級代表が発表し、交流する。榎島小学校の6年生は、その様子を映像で鑑賞する。
 - エ 中学校文化祭演劇の鑑賞
榎島中学校文化祭の演劇発表を北榎島小学校5年生が鑑賞する。
 - オ 児童会・生徒会の連携
小学校児童会と中学校生徒会の合同会議を行い、合同あいさつ運動など連携を図る。
- (4) 家庭・地域社会との連携
小中一貫教育便り「マキシマム」の継続発行(保護者配布・地域回覧)やHPへの掲載、各校の情報誌での小中一貫教育目標やめざす子ども像、取組等の広報や校内掲示等を行い、小中一貫教育に向けた取組や研究を積極的に情報発信する。また、学校・地域行事で、児童生徒が共に活動したり、交流したりする場面や小中一貫教育の成果を発揮する場面を設定する。

平成28年度 榎島中学校ブロック

小中一貫教育

マキシマム・プラン

小中一貫教育目標とめざす子ども像
「豊かな人間性と未来を創造する子どもの育成」

- 心身共に健康で、明るく活動する子
- 意欲的に学び、深く考え、豊かに表現する子
- 地域でつながり、共に支え合い、高め合う子

推進組織

「夢・未来」会議

校長・教頭
・教務主任(小中一貫教育コーディネーター)

★3教科+総合(学習) +道徳
以外の教科・領域部会も設定し、
小中の系統的な指導を追究
する。

小中一貫コーディネーター会議

学力充実部会

教科部会

国語科

算数・数学科

外国語活動・英語科

学習(総合的な学習の時間)

道徳

生徒指導部会

成果と課題

◇各校コーディネーターが連携し、連絡・調整・共通理解を進め、取組を計画的に実施することができた。

◇教職員研修では、ブロックの学力分析やそれを踏まえた合同研究授業を3教科領域で実施し、児童生徒の課題に迫る研究を推進することができた。

◇合同研究授業については、系統的・統一的な指導のあり方を追究する機会として、継続・発展させていく。

今年度の重点

★榎島中学校ブロック研究テーマ

“話し合い活動(対話的な学び・主体的な学び)”をテーマにした授業作りについて

目的：話し合い活動を充実させることで児童生徒の意欲的な学習活動につなげ、授業を通して子どもの力をつけていく。

取組

教職員研修

○小中合同研修会(6/15 榎島中)

○小中合同部会・教科部会(8/18 北榎島小)

○小中合同公開授業研究会(11/18 榎島中)

児童生徒交流

○陸上運動交歓記録会(10/7)

○中学生の職場体験(10/25～27)

○小学生の中学校体験入学(11/9)

○児童会・生徒会挨拶運動

○小中学生主張交流会(3月)

保護者地域連携

○北榎島小学校区青少年健全育成協議会「夏祭り」(8/6)

○榎島小学校区左義長(1月)

○北榎島小学校区餅つき&クリーン運動(1/21)

平成28年度 西小倉中学校ブロック ジョイントプラン

ー 小中一貫教育推進計画 ー

宇治市立西小倉中学校	校長	山下	一也
宇治市立西小倉小学校	校長	飯田	康夫
宇治市立南小倉小学校	校長	林	文康

小中一貫教育コーディネーター

西小倉中学校	氏名	山根 徳子
西小倉小学校	氏名	石津江勝彦
南小倉小学校	氏名	◎手塚ゆかり

1 ブロック小中一貫教育目標・めざす子ども像

小中9年間を通して 地域と共に 子ども達の ゆたかな心と 確かな学力をはぐくむ

- ・自分の考えを 豊かな表現力で伝え合う子
- ・地域とつながり 思いやりの心を大切にする子
- ・健康に気をつけ 自らの目標に向かってがんばる子

2 昨年度の成果と課題

【成果】

- ・三校の「見える化シート」を作成・分析し、それを用いた夏季合同研修会で、本ブロックの児童・生徒の特徴を共に理解し、子ども同士、教師同士、子どもと教師が「つながる」ことの重要性和、その中で育つ人間関係力と学力との関係性を三校で確認できた。
- ・1回の合同授業研、2回のフリー参観を行い、児童・生徒の様子を互いに知ることができた。合同授業研後の分科会では、各校の状況を具体的に協議することで、共通理解が深まり、学力充実に向けた具体的な手立てを探ることができた。

【課題】

- ・昨年度三校で共通理解できたことをより一層深め、各部会の取組を整理し、確実に実行する。
- ・各部担当コーディネーターを中心に、取組の充実や改善を進める。

3 平成28年度中学校ブロック小中一貫教育取組の重点(各中学校ブロックにおける重点取組)

- ①合同授業研究会の開催と教職員の授業力アップ
- ②家庭学習の定着と充実
- ③児童生徒交流
- ④保護者・地域との連携

4 平成28年度小中一貫教育の到達目標達成に向けての具体的取組

(1) 中学校ブロック推進体制の工夫や充実

- ・月1回程度のコーディネーター会議で合同研修会の計画や各部の活動状況を把握する。
- ・月1回の推進会議を持ち、コーディネーター会議の内容を確認し、協議する。
- ・各校校長、教頭がそれぞれ「学力充実・向上部」「生徒指導部」「児童生徒交流部」の担当に入り、部の責任者(コーディネーター)と相談しながら取組を進めていく。

(2) 系統的・継続的な学習指導・生徒指導の充実

- ・宇治スタンダードの充実を図る。特に小学校高学年においては、中学校へのつながりを意識し、中

学校においては小学校とのつながりを意識した授業改善を進める。

- ・教科連携加配(体育)による小学校6年生の指導や、小学校高学年における教科担任制授業を推進する。
- ・「いしずえ学習」を活用し、基礎基本の徹底や「自主学習」「振り返り学習」を行う。
- ・教職員同士、教職員と児童・生徒、児童・生徒同士のつながりを深めることを大切にしながら、学力向上へ向けての具体策を佛教大学(原教授)と協同研究により進めていく。

(3) 中学校ブロックにおける特色ある教育活動の展開

- ・年間2回の研修会、1回の合同授業研究会(南小倉小学校)、2回のフリー参観(西小倉中学校・西小倉小学校)を行い、授業改善・授業システムの共有化を図り、自主学習の取組等による家庭学習の充実に取り組む。
- ・自主学習ノートの活用により、児童の学習への意欲を高め、学力の向上につなげる。
- ・西小倉中ブロック宇治学の指導計画に基づく活動を推進し、見直し改善する。特に3年、6年の小小連携による宇治学の充実に努める。
- ・合同授業研を通じて、授業改善について交流し、児童生徒の学習意欲の向上に繋げる。
- ・「学力充実・向上部」「生徒指導部」「児童生徒交流部」の3部で、児童生徒の実態を交流し、課題の解決に向けた取組を進める。各部会で小中一貫の視点で取り組む内容を具体化していく。
 - ①学力充実・向上部・・・各校の学力向上の取組、学力実態・分析、家庭学習の充実に向けた取組の点検と実践
 - ②生徒指導部・・・「人と人とのつながりに関する取組」についての研究
「授業のきまり」を含めた規範意識の向上を目指した取組の点検と実践
 - ③児童生徒交流部・・・下記の具体的な取組を確実に実行し、充実した取組を実施
- ・児童会、生徒会の本部役員の交流をはじめ、協働できる取組を企画、実施する。(体験入学・部活体験・職場体験や地域行事での交流、児童会・生徒会合同の学習会、募金運動、あいさつ運動、小小連携としての児童交流等)
- ・各小学校の「子どもの居場所づくり事業」への中学校生徒の参加

(4) 家庭・地域社会との連携

- ・家庭学習の充実に繋がる意識アンケートを必要に応じて実施する。
- ・様々な取組を「一貫教育だより」や「学校だより」、HP等で発信する。
- ・各校の「一貫教育コーナー」(掲示板)を充実させる。
- ・3校合同地域懇談会を実施する。
- ・「小中一貫教育推進ニュース」を発行(小・中学校の保護者配布)する。

小中一貫教育目標

小中9年間を通して 地域と共に 子ども達の ゆたかな心と 確かな学力をはぐくむ
めざす子ども像

- ・自分の考えを 豊かな表現力で伝え合う子
- ・地域とつながり 思いやりの心を大切にする子
- ・健康に気をつけ 自らの目標に向かってがんばる子

【平成27年度の成果と課題】**〈成果〉**

- ・3校の「見える化シート」を作成・分析し、夏季合同研修会で子ども同士、教師同士、子どもと教師が「つながる」ことの重要性和、人間関係力と学力との関係性を三校で確認できた。
- ・合同授業研、フリー参観を通して児童・生徒の様子を互いに知ることができた。合同授業研後の分科会を通し小中それぞれの状況の理解が進み、学力充実に向けた具体的な手立てを探ることができた。

〈課題〉

- ・3校で共通理解できたことをより一層深め、各部会の取組を整理し、確実に実行する。
- ・各部担当コーディネーターを中心に、取組の充実や改善を進める。

【今年度の重点】

- ・「学力充実・向上部」「生徒指導部」「児童生徒交流部」の3部で、児童生徒の実態を交流し、課題の解決に向けた取組を進める。

【今年度の取組】**推進組織**

- 「学力充実・向上部」「生徒指導部」「児童生徒交流部」の3部会による各担当コーディネーターを中心とした課題の解決に向けた取組の推進

学力充実

- 自主学習ノートの活用及び取組の改善
- 各校家庭学習コーナーの充実
- 家庭学習の手引きの配布
- 学力実態・分析、家庭学習の充実に向けた取組の点検と実践

教職員研修

- 合同研修会
 - ・夏季合同研修会（8月18日）
 - ・合同授業研究会後の事後研
- 合同授業研
 - ・南小倉小（11月9日）
- フリー参観
 - ・西小倉中（5月31日）
 - ・西小倉小（11月24日）
- 各小中学校授業研等への教職員の参加

児童生徒交流

- 職場体験（6月14日・15日）
- 小中合同学習会・募金活動
 - ・合同学習会（12月） →各校での報告
 - ・募金活動
- あいさつ運動
- 宇治学学習交流（小小連携）
- 地域の行事に中学生が参加
- 児童交流における小小連携

家庭・地域連携

- 家庭学習の充実に繋がる意識アンケートを必要に応じて実施
- 「一貫教育だより」や「学校だより」、またHPによる取組の発信
- 各校の「一貫教育コーナー」(掲示板)を充実
- 3校合同地域懇談会の実施
- 「小中一貫教育推進ニュース」の発行

小中のスムーズな接続のために

- 教科連携加配(体育)の中学校教員による小学校6年生の指導
- 小学校高学年における教科担任制授業を推進
- 西小倉中学校体験入学(11月29日)
 - ・6年生の中学校生活体験
- 小中連絡会（5月31日・3月）

平成28年度 西宇治中学校ブロック ジョイントプラン

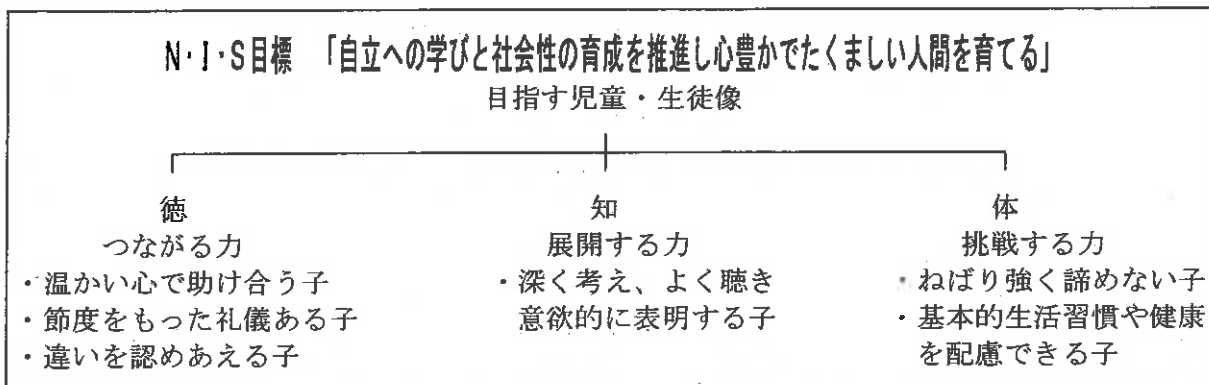
－ 小中一貫教育推進計画 －

宇治市立西宇治中学校	校長	井戸 充
宇治市立伊勢田小学校	校長	東堂 光明
宇治市立神明小学校	校長	小山 行雄

小中一貫教育コーディネーター

◎西宇治中学校	教諭	大石 充士
伊勢田小学校	教諭	瀬戸 純子
神明小学校	教諭	小野寺美栄子

1 ブロック小中一貫教育目標・めざす子ども像



2 昨年度の成果と課題

- * ブロック校長会やブロック教頭会を必要に応じて開催し、組織的な活動ができていた。
- * コーディネーター会議は必要に応じて随時行うこととし、コーディネーター間で密に連絡を取り合い連携を図った。
- * 推進会議についても多忙なこともあり開催することができず、ブロック全体の取組の検討や成果の検証は定期的にできなかった。
- * 事業計画は立案通り概ね実施することができた。
- * チーフコーディネーターの授業参観や授業中の学習支援等に努め、児童の状況把握を行った。
- * コーディネーター間の連携を密に行い、取組の改善や調整を行った。
- * 年間3回の合同研修会に取り組み、特に教科ごとに学習指導案作りから研究授業まで進めることができた。
- * 教科連携教員が外国語教育の授業の中心となっている。小学校でも外国語の学習については小学校の教員が主体となっていくことから、更に教科連携教員や中学校の英語科との連携と事前の打ち合わせが必要となっていく。
- * 伊勢田小学校で教科+宇治学+特支の11の研究授業を実施した。
- * 学力充実部の具体的な取組としては研究授業・事後研でその成果や次年度以降の検討課題を確認することができた。児童生徒理解部では、特支・教相の連携や方針が個に応じて取り組まれた。
- * 学習指導に関しては、教科部会の中でそれぞれが小学校から中学校へ繋ぐためのテーマや課題点に視点を置き研修ができた。次年度は更に今年度の研究授業や学力分析を元に研修を進めていきたい。
- * 小小連携が計画されていたが、実施できなかった。
- * チーフコーディネーターが週1程度、各小学校に行き授業のサポートや小中間の連絡調整等を行った。
- * 小6の児童を中心に教育相談・特別支援のつながりを強化した。
(各校の特別支援学級の交流『コマ回し』『餅つき』等を実施。)

3 平成28年度中学校ブロック小中一貫教育取組の重点

進路指導を見据え学力向上の取組を基本に置く

- (1) 合同研修会各教科部会の充実と発展・公開授業研究会の実施
- (2) 領域3部会機能の活性化
- (3) 小小連携の充実（中学進学に向け、共通取組による実態改善）
- (4) 相互連携授業の充実

4 平成28年度小中一貫教育の到達目標達成に向けての具体的取組

(1) 中学校ブロック推進体制の工夫や充実

- ・ブロック校長会を必要に応じ開催し、進行管理をする。
- ・ブロック教頭会を必要に応じ開催する。
- ・コーディネーター会議（月2回）、推進会議（月1回）を定期的に開催し、本ブロックの取組内容及び成果を検証しつつ推進する。
- ・領域3部会（学力充実部会・児童生徒理解部会・児童生徒交流部会）を定例で開催し、課題の共有化を図る。
- ・コーディネーターを核とした推進会議による事業計画の具体化を行う。
- ・推進会議を受けて、領域3部会における取組を充実させる。
- ・コーディネーター会議を3校を回って開催するなど、児童の実態や状況を正確に把握し、小中の連絡調整や取組の改善・充実に努める。
- ・**中学校ブロックにおける教職員の研究・研修の充実**
教科連携教員による外国語授業を継続進行する。
小中合同研修会を設定（6月 8月 10月）する。
輪番制による公開授業研究を行う。
学力充実部会及び児童生徒理解部会における取組の具体化を行う。
相互連携授業においては、小学校教員における中学校での授業も検討する。
- ・コーディネーター会議において、本ブロックにおけるいしずえ学習、宇治学の指導計画をはじめとした取組を検証し、改善を図る。

(2) 系統的・継続的な学習指導・生徒指導の充実

- ・合同研修会において各教科部会を充実させ、昨年度の年間指導計画を改善する。

(3) 中学校ブロックにおける特色ある教育活動の展開

- ・チーフコーディネーターを随時小学校へ派遣し、児童の実態把握、小中の連絡調整、相互連携授業を強化する。
- ・合同研修会各教科部会の一層の充実を図り、公開授業研究会を計画的に実施する。
- ・領域3部会機能を活性化する。
- ・小小連携を充実（中学進学に向け、共通取組による実態改善）する。
- ・相互連携授業を充実させる。

(4) 家庭・地域社会との連携

- ・学期1回広報誌を発行する（コーディネーターが作成）。
- ・小中一貫教育掲示板を3校ともに見えやすい位置に設置し、内容の充実を図る。
- ・各校学校便りやHPで取組状況を広報する。
- ・中学校での授業参観実施時に小学校の保護者に参加案内を行う。

ブロック小中一貫

N・I・S目標 「自立への学びと社会性の育成を推進し心豊かでたくましい人間を育てる」

めざす子ども像

○徳(つながる力)温かい心で助け合う子,節度をもった礼儀ある子,違いを認めあえる子

○知(展開する力)深く考え、よく聴き意欲的に表明する子

○体(挑戦する力)ねばり強く諦めない子,基本的な生活習慣や健康を配慮できる子

成果と課題

教科部会の中でそれぞれが小学校から中学校へ繋ぐためのテーマや課題点に視点を置き研修ができた。

教科連携教員が外国語教育の授業の中心となっている。小学校でも外国語の学習については小学校の教員が主体となっていくことから、更に教科連携教員や中学校の英語科との連携と事前の打ち合わせが必要となっていく。

今年度の重点

進路指導を見据え学力向上の取組を基本に置く

- (1) 合同研修会各教科部会の充実と発展・公開授業研究会の実施
- (2) 領域3部会機能の活性化
- (3) 小小連携の充実(中学進学に向け、共通取組による実態改善)
- (4) 相互連携授業の充実

今年度の取組

- (1) 中学校ブロック推進体制の工夫や充実
 - ・ブロック校長会を必要に応じ開催し、進行管理をする。
 - ・ブロック教頭会を必要に応じ開催する。
 - ・コーディネーター会議(月2回)、推進会議(月1回)を定期的に開催し、本ブロックの取組内容及び成果を検証しつつ推進する。
 - ・領域3部会(学力充実部会・児童生徒理解部会・児童生徒交流部会)を定例で開催し、課題の共有化を図る。
 - ・コーディネーターを核とした推進会議による事業計画の具体化を行う。
 - ・推進会議を受けて、領域3部会における取組を充実させる。
 - ・コーディネーター会議を3校を回って開催するなど、児童の実態や状況を正確に把握し、小中の連絡調整や取組の改善・充実に努める。
 - ・中学校ブロックにおける教職員の研究・研修の充実
教科連携教員による外国語授業を継続進行する。
小中合同研修会を設定(6月 8月 10月)する。
輪番制による公開授業研究を行う。
学力充実部会及び児童生徒理解部会における取組の具体化を行う。
相互連携授業においては、小学校教員における中学校での授業も検討する。
 - ・コーディネーター会議において、本ブロックにおけるいしずえ学習、宇治学の指導計画をはじめとした取組を検証し、改善を図る。
- (2) 系統的・継続的な学習指導・生徒指導の充実
 - ・合同研修会において各教科部会を充実させ、昨年度の年間指導計画を改善する。
- (3) 中学校ブロックにおける特色ある教育活動の展開
 - ・チーフコーディネーターを随時小学校へ派遣し、児童の実態把握、小中の連絡調整、相互連携授業を強化する。
 - ・合同研修会各教科部会の一層の充実を図り、公開授業研究会を計画的に実施する。
 - ・領域3部会機能を活性化する。
 - ・小小連携を充実(中学進学に向け、共通取組による実態改善)する。
 - ・相互連携授業を充実させる。
- (4) 家庭・地域社会との連携
 - ・学期1回広報誌を発行する(コーディネーターが作成)。
 - ・小中一貫教育掲示板を3校ともに見えやすい位置に設置し、内容の充実を図る。
 - ・各校学校便りやHPで取組状況を広報する。
 - ・中学校での授業参観実施時に小学校の保護者に参加案内を行う。

平成28年度 南宇治中学校ブロック ジョイントプラン

— 小中一貫教育推進計画 —

宇治市立南宇治中学校	校長	秋元	恒志
宇治市立西大久保小学校	校長	塩尻	嘉明
宇治市立平盛小学校	校長	原田	繁

小中一貫教育コーディネーター

◎(南宇治)中学校	氏名	教諭	森田	佳慧
(西大久保)小学校	氏名	教諭	中村	亘宏
(平盛)小学校	氏名	教諭	向井	毅

1 ブロック小中一貫教育目標・めざす子ども像

<南宇治中学校区小中一貫教育目標>

「夢や希望を持ち、未来をたくましく生きぬく児童生徒の育成」

<9年間で育てたい力>

- (1) 自ら学び、共に学び合い、真理を探究する力
 - ① 授業規律の確立と基礎・基本の徹底
 - ② 言語活動の充実
 - ③ 学習意欲の向上
- (2) 豊かな心を持ち、人間関係を築く力
 - ① 集団の中での自己存在感の確立
 - ② 共感的人間関係を基盤とした教育活動の推進
 - ③ 思いやりや心づかいがあふれる実践的態度の育成
- (3) 生命を大切に、たくましく生きる力
 - ① 目標に向かって挑戦する意欲の高揚
 - ② くじけず、着実に歩む強い心の育成
 - ③ 自分や仲間の生命を尊重する態度の育成
- (4) 未来に向けた自分の生き方を求める力
 - ① 自分の良さや適性を伸ばし、自尊感情を高める取組の推進
 - ② 自分の目標を定めるための体験や学びの充実
 - ③ 児童・生徒の夢をはぐくむ学校・家庭・地域の連携

2 昨年度の成果と課題

- ・年間計画に基づいて、児童・生徒の交流の機会を数多く持ち、小中間のつながりを深めることができた。
- ・小小連携を意識した取組が実施できた。
- ・教職員研修も実りあるものとなった。
- ・学力の向上をいかに進めていくかが課題である。

3 平成28年度中学校ブロック小中一貫教育取組の重点(各中学校ブロックにおける重点取組)

- (1) 児童生徒交流の取組の充実を図る。
- (2) ことばの力、コミュニケーション能力の育成を図る。

4 平成28年度小中一貫教育の到達目標達成に向けての具体的取組

- (1) 中学校ブロック推進体制の工夫や充実
 - ・ブロック校長会をふまえ、コーディネーター会議及び推進委員会の計画的実施
 - ・ブロック校長会の指導に基づく推進計画の立案・改善充実
 - ・コーディネーター会議及び推進委員会等における教科連携加配教員の効果的な活用
 - ・チーフコーディネーターの定期的な学校訪問
- (2) 系統的・継続的な学習指導・生徒指導の充実
 - ・公開授業参観の実施
 - ・事前研・事後研を含む授業研究の実施
 - ・授業規律の共有
 - ・小中教員が協働で指導案を作成し、ティームティーチング授業を実施
 - ・外国語活動英語部、学力充実部及び連携授業（理科）の年間を通じた交流、授業研究、学力分析
 - ・「宇治学」小小連携授業の実施
- (3) 中学校ブロックにおける特色ある教育活動の展開
 - ・小学6年生の授業体験・部活動体験の実施
 - ・中学生による小学生指導支援
 - ・小中合同地域清掃ボランティア活動の実施
 - ・児童会生徒会合同会議の実施
 - ・児童会生徒会合同あいさつ運動の実施
 - ・両小学校での帰国外国人児童生徒理解学習の実施
 - ・食育の取組の実施
- (4) 家庭・地域社会との連携
 - ・他校に学校だよりを配布
 - ・地域に学校だよりを配布
 - ・「小中一貫教育だより」を校区の保護者対象に年3回発行
 - ・小中合同あいさつ運動への保護者の参加

南宇治中学校ブロック小中一貫めざすこども像

夢や希望を持ち、未来をたくましく生きぬく児童生徒の育成

成果と課題

- ・年間計画に基づいて、児童・生徒の交流を数多く持ち、小中間のつながりを深めることができた。
- ・小小連携を意識した取組が実施でき、教職員研修も実りあるものとなった。
- ・学力の向上をいかに進めていくかが課題である。

今年度の重点

- (1) 児童生徒交流の取組の充実を図る。
- (2) ことばの力、コミュニケーション能力の育成を図る。

今年度の取組

(1) 中学校ブロック推進体制の工夫や充実

- ・ブロック校長会をふまえ、コーディネーター会議及び推進委員会の計画的実施
- ・ブロック校長会の指導に基づく推進計画の立案・改善充実
- ・コーディネーター会議及び推進委員会等における教科連携加配教員の効果的な活用
- ・チーフコーディネーターの定期的な学校訪問

(2) 系統的・継続的な学習指導・生徒指導の充実

- ・公開授業参観の実施
- ・事前研・事後研を含む授業研究の実施
- ・授業規律の共有
- ・小中教員が協働で指導案を作成し、チームティーチング授業を実施
- ・外国語活動英語部、学力充実部及び連携授業（理科）の年間を通じた交流、授業研究、学力分析
- ・「宇治学」小小連携授業の実施

(3) 中学校ブロックにおける特色ある教育活動の展開

- ・小学 6 年生の授業体験・部活動体験の実施
- ・中学生による小学生指導支援
- ・小中合同地域清掃ボランティア活動の実施
- ・児童会生徒会合同会議の実施
- ・児童会生徒会合同あいさつ運動の実施
- ・両小学校での帰国外国人児童生徒理解学習の実施
- ・食育の取組の実施

(4) 家庭・地域社会との連携

- ・他校に学校だよりを配布
- ・地域に学校だよりを配布
- ・「小中一貫教育だより」を校区の保護者対象に年 3 回発行
- ・小中合同あいさつ運動への保護者の参加

平成28年度 広野中学校ブロック ジョイントプラン

— 小中一貫教育推進計画 —

宇治市立 広野中学校 校長 川嶋 浩司
宇治市立 大久保小学校 校長 松居 博之
宇治市立 大開小学校 校長 村田 正直

小中一貫教育コーディネーター			
広野中学校	職名	教諭	氏名 小林 哲也
大久保小学校	職名	教諭	氏名 天花寺 裕◎
大開小学校	職名	教諭	氏名 立原 隆弥

1 ブロック小中一貫教育目標・めざす子ども像

<教育目標>

夢や希望を持って未来を切り拓ける児童生徒の育成

<9年間で育てたい力（めざす児童生徒像）>

自ら学び考える力 豊かな人間関係を築ける力
健やかな体で粘り強くやり抜く力 自分の生き方を求めていく力

2 昨年度の成果と課題

<成果>

- ・児童会、生徒会を中心に多彩な取組を進めることができた。
- ・小中一貫教育を支える小小連携に力を入れ取組を進めることができた。
- ・3校の授業研究会へ参加し合い、各校での「伝え合う力」を育てる授業の研究に生かすことができた。
- ・小学校での児童の学習や生活の様子を知る機会として、中学校教員による小学校体験研修を行うことができた。
- ・3校合同での地域懇談会やPTA・育友会懇談会を開催するなど、学校、家庭、地域で連携・協力しながら小中一貫教育を進めることができた。
- ・3校の行事予定表やHOOP（宇治ひろの学園小中一貫だより）を作成して家庭や地域に配付し、小中一貫教育について積極的に情報発信することができた。
- ・他地域からの視察を受け入れ、本学園の小中一貫教育の取組を広めることができた。

<課題>

- ・各校の教職員の交流や共同研究を充実させ、教職員の意識や日常的な取組を定着させる。
- ・小小連携を更に充実させて有効活用し、無理なく効果的な小中一貫教育の取組を進めていく。
- ・中学校ブロックとして、学力充実に焦点化した取組をさらに推進する。
- ・家庭、地域に対して「目に見える取組」を更に展開していく。

3 平成28年度中学校ブロック小中一貫教育の重点（中学校ブロックにおける重点取組）

◎今までの研究の成果・課題を整理して、研究内容・取組の再確認、共通理解を深めることにより、より効果的に取組を進める。

○宇治ひろの学園小中一貫教育の円滑な運営及び推進

- ・年間の計画（5月：総会 8月：合同研修会 3月：各校でまとめ）
- ・伝え合う力の育成のための教育活動の取組
- ・2小1中で協力した授業研究（小小の連携、小中の連携）
- ・児童生徒の交流・小学校教員と中学校教員の交流の充実
- ・各部会の取組の再確認と共通理解を深めることによる効果的な取組の推進

○学力向上に向けての取組

- ・宇治ひろの学園 共通問題（算数）の作成・実施
- ・中学校定期テスト不安軽減の取組（小学校6年生で実施）

○小小連携の充実

○保護者、地域への情報発信と啓発の充実

4 平成28年度小中一貫教育の到達目標達成に向けての具体的取組

(1)中学校ブロック推進体制の工夫や充実

- ・ブロック校長会議(学校運営部会)の実施(月1回以上)
- ・コーディネーター会議(事務局部会)の定期的な実施(月1回以上)
- ・各部会の組織的な活動の実施

(2)系統的・継続的な学習指導・生徒指導の充実

- ・教員の定期的な打合せの時間の確保
- ・各部会の校種をこえた組織的な活動の実施
- ・大久保小と大開小の小小連携の計画及び実施(授業研への参加・交流)
- ・3校での夏季合同研修の実施
- ・小6の中学校体験学習での小中教員の合同での授業
- ・中学校教員の小学校体験研修及び小学校教員の中学校体験研修
- ・小学校教員の中学校部活動見学
- ・生徒指導交流と連携の充実(年間3回:学期1回)
- ・中学校定期テスト不安軽減の取組(2学期以降3回程度)

(3)中学校ブロックにおける特色ある教育活動の展開

- ・大久保小と大開小の小小連携の計画及び実施(授業研への参加・交流)
- ・全国学力学習状況調査や京都府学力診断テスト、及びブロック独自で取り組むCRTテストの結果の分析と課題解決に向けた取組の検討及び実施
- ・宇治ひろの学園共通問題(小6算数)の作成・実施
- ・コーディネーター会議(事務局会議)の定期的な実施(月1回以上)
- ・児童生徒理解部会、特別支援教育部会の合同研修の計画及び実施
- ・中学校ブロック独自の生徒指導カルテの作成・引継
- ・HOT-MEETING(3校合同児童生徒会)の実施(年3回程度)
- ・福島ひまわりプロジェクトの実施
- ・3校児童生徒会合同での取組の充実(あいさつ運動、エコキャップ、プルトップの回収)
- ・中学生が小学校低学年への絵本の読み聞かせ
- ・小学校クラブへのアシスタントティーチャーとしての参加
- ・小6の中学校体験学習での小小交流事業
- ・中学1年生による2小学校1年生への読み聞かせ(紙芝居)

(4)家庭・地域社会との連携

- ・H00P(宇治ひろの学園小中一貫教育だより)の保護者・地域への全戸配付
- ・各校の学校だよりでの紹介やホームページの活用
- ・各校での行事を活用した積極的な情報発信
- ・3校合同の地域懇談会や保護者懇談会の計画及び実施
- ・小6の中学校体験学習の保護者参観
- ・大開っ子くらぶ(土曜日の活用事業)での広中生徒の参加

ブロック小中一貫目標・めざす子ども像

<教育目標>

夢や希望を持って未来を切り拓ける児童生徒の育成

<9年間で育てたい力(めざす児童生徒像)>

自ら学び考える力 豊かな人間関係を築ける力

健やかな体で粘り強くやり抜く力 自分の生き方を求めていく力

成果と課題

<成果>

- ・児童会、生徒会を中心に多彩な取組を進めることができた。
- ・小中一貫教育を支える小小連携に力を入れ取組を進めることができた。
- ・3校の授業研究会へ参加し合い、各校での「伝え合う力」を育てる授業の研究に生かすことができた。
- ・小学校での児童の学習や生活の様子を知る機会として、中学校教員による小学校体験研修を行うことができた。
- ・3校合同での地域懇談会やPTA・育友会懇談会を開催するなど、学校、家庭、地域で連携・協力しながら小中一貫教育を進めることができた。
- ・3校の行事予定表やH00P(宇治ひろの学園小中一貫だより)を作成して家庭や地域に配付し、小中一貫教育について積極的に情報発信することができた。
- ・他地域からの視察を受け入れ、本学園の小中一貫教育の取組を広めることができた。

<課題>

- ・各校の教職員の交流や共同研究を充実させ、教職員の意識や日常的な取組を定着させる。
- ・小小連携を更に充実させて有効活用し、無理なく効果的な小中一貫教育の取組を進めていく。
- ・中学校ブロックとして、学力充実に焦点化した取組をさらに推進する。
- ・家庭、地域に対して「目に見える取組」を更に展開していく。

今年度の重点

- 宇治ひろの学園小中一貫教育の円滑な運営及び推進
 - ・年間の計画(5月:総会 8月:合同研修会 3月:各校でまとめ)
 - ・伝え合う力の育成のための教育活動の取組
 - ・2小1中で協力した授業研究(小小の連携、小中の連携)
 - ・児童生徒の交流・小学校教員と中学校教員の交流の充実
 - ・各部会の取組の再確認と共通理解を深めることによる効果的な取組の推進
- 学力向上に向けての取組
 - ・宇治ひろの学園 共通問題(算数)の作成・実施
 - ・中学校定期テスト不安軽減の取組(小学校6年生で実施)
- 小小連携の充実
- 保護者、地域への情報発信と啓発の充実

今年度の取組**★児童生徒が交流する取組**

- ・HOT-MEETING(3校合同児童生徒会)
- ・HOT-STUDY(中学校 新入生半日入学)
- ・3校でのエコキャップ・プルタブの回収
- ・クラブアシスタントティーチャー(中学生の小学校クラブへの参加)
- ・中学生による小学生への紙芝居の読み聞かせ
- ・福島ひまわり里親プロジェクトへの参加 他

★学力充実の取組

- ・板書カード・授業システム・家庭学習の手引き
- ・全国学力・学習状況調査、府学力診断テスト、CRTテストの結果分析と課題の共通理解
- ・小学校高学年での「教科担当制」
- ・中1振りスタへの小学校教員の参加
- ・宇治ひろの共通問題(算数)の作成・実施 他

★教職員が交流・共同研究する取組

- ・宇治ひろの学園研究会の開催(5月総会、8月夏季合同研修会)
- ・2小学校教員による小小交流の充実
- ・各校授業研究会への参加
- ・小学校教員による中学校の部活動見学
- ・中学校教員による小学校体験研修 他

★保護者・地域と交流する取組

- ・広野中学校吹奏楽部定期演奏会
in大久保小学校
「オータムメモリーコンサート」の開催
- ・3校合同地域懇談会の開催
- ・3校合同PTA・育友会懇談会の開催
- ・子どもの主張大会(大久保学区青少協主催) 他

平成28年度 東宇治中学校ブロック ジョイントプラン

— 小中一貫教育推進計画 —

宇治市立東宇治中学校	校長	久保田正宏
宇治市立岡屋小学校	校長	小田 康博
宇治市立南部小学校	校長	筒井 眞代
宇治市立三室戸小学校	校長	土屋 満

小中一貫教育コーディネーター

◎ 南部小学校	氏名	小谷 実
東宇治中学校	氏名	肥川 正志
岡屋小学校	氏名	丸尾 章弘
三室戸小学校	氏名	甲斐 聖人

1 ブロック小中一貫教育目標・めざす子ども像

教育目標

「命を輝かす人間」

めざす児童・生徒像

「自ら学び学習する児童・生徒」

「思いやりのある児童・生徒」

「たくましく生きる児童・生徒」

「健康や安全を考える児童・生徒」

2 昨年度の成果と課題

- 本ブロック児童・生徒の実態を踏まえた、指導を通した合同研究・合同研修の流れを確立することができた。
- 様々な形式での児童・生徒交流や地域・家庭連携のための情報発信・取組を積極的に進めることができた。
- ブロック校長会議を中心に、コーディネーター会議で調整を図りながら、様々な取組を推進することができた。
- 児童・生徒を「命を輝かす人間」に成長させるために、学力や生活課題を一層明確にし、課題解決に向けた総合的な取組を進める必要がある。

3 平成28年度中学校ブロック小中一貫教育取組の重点（各中学校ブロックにおける重点取組）

- これまでの小中連携・小中一貫教育の成果と課題を踏まえた取組を推進しながら、小中一貫教育の基本である「義務教育9年間で、確かな学力と生きる力を身に付けさせるための系統的・統一的な指導を実現する」という視点で、取組の点検・評価・改善を図る。
- 「ブロック校長会議」を中心とした「ブロック運営委員会」を推進の要とした推進組織体制を継続し、「ブロック校長会議」や「ブロック教頭会議」と「コーディネーター会議」との連携を深めながら、「推進3部会」や合同研究授業に向けた「授業研究部会」で取組を具現化し、ブロックの小中一貫教育を推進する。
- 授業公開・合同研究授業・各部会研究・様々な関連事業すべてで、児童生徒の「ことばの力」を高め、学力や生きる力の基盤充実を図ることを意識した研究・実践を進める。
- 地域ぐるみで児童生徒を育て、高める視点を持ち、地域・PTA(育友会)行事への参画や家庭・地域への情報発信、連携強化を積極的に進める。

4 平成28年度小中一貫教育の到達目標達成に向けての具体的取組

(1) 中学校ブロック推進体制の工夫や充実

ブロック校長会議のリーダーシップの下、校長、教頭・コーディネーター・小中連携教員で組織するブロック運営委員会で、推進の方向性を確認しながら、取組の進行管理を行う。また、ブロック校長会議やブロック教頭会議とコーディネーター会議との連携を強化し、小中一貫教育を推進する機能的な体制を確立する。

(2) 系統的・継続的な学習指導・生徒指導の充実

年間を通して、小中合同研修会(合同研究授業を含む)や推進3部会(児童生徒交流部・児童生徒理解部・児童生徒学力充実部)で、本ブロックの児童生徒の学力・生活課題に迫るテーマや小中の接続の課題について研修や取組を進め、系統的・継続的な指導の充実に努める。特に、学力や生きる力の基盤となる「ことばの力」を高める指導や中1ギャップを解消するための取組を積極的に推進する。

(3) 中学校ブロックにおける特色ある教育活動の展開

3小1中での児童生徒交流や1小1中での児童生徒交流、小中一貫教育の基盤となる小小連携の取組、地域・PTA(育友会)と連携し地域ぐるみで進める取組など、様々な形態を工夫しながら、小中一貫教育を総合的に推進する。

(4) 家庭・地域社会との連携

定期的に小中一貫教育だよりを配布したり、各校の学校便り等で小中一貫教育の取組を広報したり、情報発信を積極的に進める。また、地域ぐるみで児童生徒を育て、高める視点を持ち、地域・PTA(育友会)行事へ積極的に参画する。

家庭との連携強化の切り口として、ブロック共通の「家庭学習の手引き」(保存版)を配布し、積極的に活用する。

小中一貫教育の構想図

教育目標

「命を輝かす人間」

めざす児童・生徒像

「自ら学び学習する児童・生徒」

「思いやりのある児童・生徒」

「たくましく生きる児童・生徒」

「健康や安全を考える児童・生徒」

昨年度の成果と課題

- 本ブロック児童・生徒の実態を踏まえた、指導を通じた合同研究・合同研修の流れを確立することができた。
- 様々な形式での児童・生徒交流や地域・家庭連携のための情報発信・取組を積極的に進めることができた。
- ブロック校長会議を中心に、コーディネーター会議で調整を図りながら、様々な取組を推進することができた。
- 児童・生徒を「命を輝かす人間」に成長させるために、学力や生活課題を一層明確にし、課題解決に向けた総合的な取組を進める必要がある。

今年度の重点

- 小中一貫教育実施4年間の成果と課題を踏まえた取組を推進しながら、小中一貫教育の基本である「義務教育9年間で、確かな学力と生きる力を身に付けさせるための系統的・統一的な指導を実現する」という視点で、取組の点検・評価・改善を図る。
- 「ブロック校長会議」を中心とした「ブロック運営委員会」を推進の要とした推進組織体制を継続し、「ブロック校長会議」や「ブロック教頭会議」と「コーディネーター会議」との連携を深めながら、「推進3部会」や合同研究授業に向けた「授業研究部会」で取組を具現化し、ブロックの小中一貫教育を推進する。
- 授業公開・合同研究授業・各部会研究・様々な関連事業すべてで、児童生徒の「ことばの力」を高め、学力や生きる力の基盤充実を図ることを意識した研究・実践を進める。
- 地域ぐるみで児童生徒を育て、高める視点を持ち、地域・PTA(育友会)行事への参画や家庭・地域への情報発信、連携強化を積極的に進める。

今年度の取組

教職員研修

- 小中合同研修会(5/30・8/23・11/17)
- 小中合同研究授業(11/17 会場:三室戸小)
- 相互授業参観
 - ・小学校から中学校授業参観(5/30)
 - ・中学校から小学校授業参観(6/6)
- 教職員広報の発行
- 4校学校便りを教職員へ配布
- 3小合同研修会+合同学年会(8/21)
- 中学1年ふりスタへの小学校教員支援
- 東宇治中ブロック児童生徒の学力分析

児童・生徒交流

- 小学6年生の中学校体験入学(11/8)
- 中学2年生の小学校での職場体験(5/26・27)
- エコキャップ回収運動(セミナー2/15)
- 中学生の美術作品巡回展示(2学期)
- 花植ボランティアによるプランター贈呈
- 地域行事での交流

家庭・地域との連携

- 小中一貫教育便りの発行
- 「家庭学習の手引き」(保存版)の配布
- PTA・育友会 保護者合同研修会(2学期)
- 小中一貫教育コーナー(掲示板)の設置
- 小中一貫教育リーフレットの配布(小学1年・転入生)
- 「おおばくまつり」(東宇治ふれあいネット)

小中スムーズな接続のために

- スクールライフサポートブック配布(小学6年)
- 先スタ(中学入学前の学習)の配布(小学6年)
- 小学6年生の中学校体験入学(11/8)
- 小中連携教員による外国語活動指導(小学6年)
- 東宇治中入学保護者説明会(12/1)
- 小中連絡会(5/16・12月・2月)
- 中学校学校便りを小学6年生に配布
- 授業で使用する板書カードの統一化

小中一貫教育推進に関わって

- ブロック校長会議、ブロック教頭会議とコーディネーター会議の連携を強化し、小中一貫教育を推進する。
- ブロック校長会議のリーダーシップの下、ブロック運営委員会で推進の方向性を確認しながら、取組の進捗管理を行う。

平成28年度 木幡中学校ブロック ジョイントプラン

－ 小中一貫教育推進計画 －

宇治市立木幡中学校	校長 森 義明
宇治市立御蔵山小学校	校長 芦田 定雄
宇治市立木幡小学校	校長 八木 章
宇治市立笠取小学校	校長 角田 泰志
宇治市立笠取第二小学校	校長 岩井 浩

小中一貫教育コーディネーター

◎木幡	中学校	氏名	植木 昭人
木幡	中学校	氏名	石田 京美
御蔵山	小学校	氏名	田中 和枝
木幡	小学校	氏名	西村 浩
笠取	小学校	氏名	水田 利枝
笠取第二	小学校	氏名	石田 博之

1 ブロック小中一貫教育目標・めざす子ども像

木幡中ブロック教育目標

「故郷（ふるさと）で夢や希望をはぐくみ、未来を切り拓く児童生徒」

2 昨年度の成果と課題

（成果）

小中一貫教育の各取組は、予定通り実施出来た。

研究授業の方向性を全教科で統一し実施した。

領域部会を領域連絡会に改名し、どちらかに教員が参画し、教科と領域の重複課題をなくした。

（課題）

領域連絡会は、会議の在り方や持ち方等に課題を残す。また、小中の児童・生徒交流は実施内容に再考を要する。

3 平成28年度中学校ブロック小中一貫教育取組の重点（各中学校ブロックにおける重点取組）

- ・ 木幡中ブロック校長会の指導のもと、教頭の役割を明確にする中、チーフコーディネーターを要とし、組織的な取組をおこなう。
- ・ 研究の方向性に沿って取組計画を立て、教職員や児童生徒の交流事業や合同事業をすすめる。
- ・ 8つの教科部会で、授業研究をすすめる。
- ・ 6つの領域連絡会で、小中の系統的、継続的な指導をすすめる。
- ・ 「宇治学」については、平成29年度から副読本を小学校3・6年生で導入する対応準備を進める。
- ・ 児童生徒、保護者、教職員、地域への啓発活動をすすめる。

4 平成28年度小中一貫教育の到達目標達成に向けての具体的取組

(1) 中学校ブロック推進体制の工夫や充実

ブロック校長会、教頭会と小中一貫教育推進委員会を常にリンクさせ、計画的に取組を推進する。6領域連絡会および8教科部会の定例化を図り特色のある取組を推進する。

(2) 系統的・継続的な学習指導・生徒指導の充実

- ・ 中学入学時の不安軽減へ向けての様々な取組を行う。
- ※ 1 年生の定期テストへの不安軽減対策を含む
- ・ 中学校理科教員による全小学校での授業（通年、毎週）を実施する。
- ・ へき地校を含んだ小小連携授業を実施する。
- ・ 合同研修会を通して小中教員の T T による指導案の作成から研究授業を行う。（11 月 18 日）
- ・ 小中が継続的に一貫した目標で取り組む事で小中のなめらかな接続を図る。
- ・ 各小学校において積極的に教科担当制を取り入れる。

（3）中学校ブロックにおける特色ある教育活動の展開

①中学校ブロック小中一貫教育推進組織体制や計画・取組についての点検・評価の実施

- ・ 部会ごとのアンケートをもとに推進委員会の中で総括する。その中で、成果や課題を明らかにし次年度に有効な方向をさぐる。

②中学校ブロックにおける教職員の研究・研修の充実

- ・ 全教職員が、教科部会または領域連絡会に所属する。
- ・ 各校の学校行事の計画段階で一貫教育を意識した取組を計画的、有効的に組み込む。
- ・ 研究の具体的な方向性を掲げる。
どの教科にも通じる「学び合い」「ことばの力」を大切にした授業にしていく。
- ・ 研究授業に向けて取り組む中で、小中の学習指導の流れをお互いが認識し、系統的・継続的な指導を行う。
- ・ 年間 3 回の小中教員の合同研修会（6 月 15 日、8 月 22 日、11 月 18 日）を柱にする。
その中で各部長を中心とした教科部会を持ち、少ない機会であっても有効に活用する。
- ・ 各領域連絡会は、既存の部会へその役目を移行する方向で可能な限り設定する。

③中学校ブロックにおける児童生徒の交流事業、体験活動の充実

ア 小学生の中学校への体験入学

11 月 8 日（火） 歓迎行事の取り組み、部活動の体験

イ 中学生の部活動単位での交流

- ・ 陸上部による駅伝指導
- ・ 吹奏楽部による小学校での発表会
- ・ 美術部による小学校作品展への展示発表

ウ 児童会、生徒会の交流

- ・ 小学校児童会本部役員会と中学校生徒会本部役員会が共に交流する機会を設定する。
※昨年度は「挨拶運動」を実施した。今年度は再考中。

エ 三校交流による小小連携の取り組み

6 月 8 日（水） 木幡小、笠取小、笠取第二小

11 月 25 日（金） 御蔵山小、笠取小、笠取第二小

（4）家庭・地域社会との連携

- ・ ふれあいフェスタ、おもろいやんか木幡への参加。
- ・ 「小中一貫教育通信」（保護者、児童生徒向け）を定期発行する。
- ・ 中学校の「生活だより」（毎月発行）を全 6 年生（笠取小・笠取二小は 5・6 年生）に配布する。
- ・ ホームページ等の活用。

ブロック小中一貫教育目標

めざす子ども像 故郷（ふるさと）で夢や希望をはぐくみ、未来を切り拓く児童・生徒

昨年度の成果と課題

(成果)

小中一貫教育の各取組は、予定通り実施出来た。
研究授業の方向性を全教科で統一し実施した。
領域部会を領域連絡会に改名し、どちらかに教員が参画し、教科と領域の重複課題をなくした。

(課題)

領域連絡会は、会議の在り方や持ち方等に課題を残す。また、小中の児童・生徒交流は実施内容に再考を要する。

今年度の重点

- ・木幡中ブロック校長会の指導のもと、教頭の役割を明確にする中、チーフコーディネーターを要とし、組織的な取組をおこなう。
- ・研究の方向性に沿って取組計画を立て、教職員や児童生徒の交流事業や合同事業をすすめる。
- ・8つの教科部会で、授業研究をすすめる。
- ・6つの領域連絡会で、小中の系統的、継続的な指導をすすめる。
- ・「宇治学」については、平成 29 年度から副読本を小学校 3・6 年生で導入する対応準備を進める。
- ・児童生徒、保護者、教職員、地域への啓発活動をすすめる。

今年度の取組

(1) 中学校ブロック推進体制の工夫や充実

ブロック校長会、教頭会と小中一貫教育推進委員会を常にリンクさせ、計画的に取組を推進する。6 領域連絡会および 8 教科部会の定例化を図り特色のある取組を推進する。

(2) 系統的・継続的な学習指導・生徒指導の充実

- ・中学入学時の不安軽減へ向けての様々な取組を行う。
※ 1 年生の定期テストへの不安軽減対策を含む
- ・中学校理科教員による全小学校での授業（通年、毎週）を実施する。
- ・へき地校を含んだ小小連携授業を実施する。
- ・合同研修会を通して小中教員の T T による指導案の作成から研究授業を行う。(11 月 18 日)
- ・小中が継続的に一貫した目標で取り組む事で小中のなめらかな接続を図る。
- ・各小学校において積極的に教科担当制を取り入れる。

(3) 中学校ブロックにおける特色ある教育活動の展開

① 中学校ブロック小中一貫教育推進組織体制や計画・取組についての点検・評価の実施

- ・部会ごとのアンケートをもとに推進委員会の中で総括する。その中で、成果や課題を明らかにし次年度に有効な方向をさぐる。

② 中学校ブロックにおける教職員の研究・研修の充実

- ・全教職員が、教科部会または領域連絡会に所属する。
- ・各校の学校行事の計画段階で一貫教育を意識した取組を計画的、有効的に組み込む。
- ・研究の具体的な方向性を掲げる。

どの教科にも通じる「学び合い」「ことばの力」を大切にしたい授業にしていこう。

- ・研究授業に向けて取り組む中で、小中の学習指導の流れをお互いが認識し、系統的・継続的な指導を行う。
- ・年間 3 回の小中教員の合同研修会（6 月 15 日、8 月 22 日、11 月 18 日）を柱にする。
その中で各部長を中心とした教科部会を持ち、少ない機会であっても有効に活用する。
- ・各領域連絡会は、既存の部会へその役目を移行する方向で可能な限り設定する。

③ 中学校ブロックにおける児童生徒の交流事業、体験活動の充実

ア 小学生の中学校への体験入学

11月 8日(火) 歓迎行事の取り組み、部活動の体験

イ 中学生の部活動単位での交流

- ・陸上部による駅伝指導
- ・吹奏楽部による小学校での発表会
- ・美術部による小学校作品展への展示発表

ウ 児童会、生徒会の交流

- ・小学校児童会本部役員会と中学校生徒会本部役員会が共に交流する機会を設定する。

※昨年度は「挨拶運動」を実施した。今年度は再考中。

エ 三校交流による小小連携の取り組み

6月 8日(水) 木幡小、笠取小、笠取第二小

11月25日(金) 御蔵山小、笠取小、笠取第二小

(4) 家庭・地域社会との連携

- ・ふれあいフェスタ、おもろいやんか木幡への参加。
- ・「小中一貫教育通信」(保護者、児童生徒向け)を定期発行する。
- ・中学校の「生活だより」(毎月発行)を全6年生(笠取小・笠取二小は5・6年生)に配布する。
- ・ホームページ等の活用。

平成28年度 黄檗中学校ブロック ジョイントプラン

— 小中一貫教育推進計画 —

宇治市立
宇治市立

黄檗中学校 校長
宇治小学校 校長

石田 光春
石田 光春

小中一貫教育コーディネーター

(黄檗) 中学校 氏名 齋藤 英司
(宇治) 小学校 氏名 吉野 美穂子

1 ブロック小中一貫教育目標・めざす子ども像

1) 校訓

「たかく」 高い志を持って、学びの道を究める人
「すずしく」 さわやかな心、優しい心を持った人
「たくましく」 強い意志を持って、人生を切り拓く人

2) 教育目標

高い志を持ち、他者と協調しながら、たくましく生き抜く人間を育成する。

3) めざす児童生徒像

- ・高い志を持って、学びの道を究める人（質の高い学力）
- ・さわやかな心、優しい心を持った人（豊かな人間性・社会性）
- ・強い意志を持って、人生を切り拓く人（意欲や情熱、健康な体）

2 昨年度の成果と課題

児童生徒の発達の特性に基づく、前期・中期・後期の3ステージを意識した指導や、学校行事での児童生徒相互の乗り入れの取組などにより、9年間を見通した自己実現力を育成すると共に、「中1ギャップ」の解消に役立てることができた。

自分の思いを豊かに正確に表現できる「ことばの学び」を推進させるために、さらに具体化、系統化し、学校全体のカリキュラムとして取り組んでいく必要がある。

3 平成28年度中学校ブロック小中一貫教育取組の重点(各中学校ブロックにおける重点取組)

9年間を活かした自己実現の育成 ～多様な他者の考えや思いを理解し、相手の意見を聴き、自分の考えを正確に伝える子どもの育成～

4 平成28年度小中一貫教育の到達目標達成に向けての具体的取組

(1) 中学校ブロック推進体制の工夫や充実

小中で一つの組織と考え、打ち合わせ・職員会議・研修会を小中合同で行う。その中で、適切な小中一貫教育推進のために、教職員の情報交換と意思統一を確実に行之、随時、計画や取組についての点検を行う。

企画委員会、前期主任会、中後期主任会等の会議を設定し、ステージ毎の学習内容・生徒指導についての意見交換、指導方針の確認などを行う。その中で、小中一貫コーディネータがパイプ役となり、前期・中後期主任会でそれぞれでの会議内容の共有化を図る。

(2) 系統的・継続的な学習指導・生徒指導の充実

〈学習指導〉

教育課程編成における3学年部（4・3・2制）の促進と相互連携の研究や発達段階に応じた指導法の開発を行う。

コーディネーターは、学力テストの結果を受け、小中共通の課題を見出したり、中学校の課題に向けて小学校段階でどのような対策が可能かを探ったりするなど、小中相互の学力分析を比較し改善策を検討する。

中学校でのテスト実施状況、課題点などを調査分析し、小学校段階での対策を練る。定期テストの実施など中学校のテスト形式を小学校段階で実施可能かを模索し実践につなげる。

〈生徒指導〉

9年間の継続的な生徒指導を進めるために、生徒指導部長、主任、学年主任を中心にした生徒指導を進める。課題を小中で共有化し、規範意識の確立と自尊感情の醸成を行う。

(3) 中学校ブロックにおける特色ある教育活動の展開

共に学び、共に活動できる児童生徒を目指して、異年齢集団活動を実施する。児童会、生徒会それぞれに独立した組織づくりではなく、学園会を組織して、小学生、中学生という枠組を超えた学園の一員であるという意識を育む。

(4) 家庭・地域社会との連携

育友会行事への教職員・部活動生徒の積極的な参加、学園会による地域の方々へのアンケートの実施、地域懇談会への教職員の参加、親のための進路セミナーの開催を通して家庭・地域社会との連携を深める。

ブロック小中一貫**めざす子ども像**

- ・高い志を持って、学びの道を究める人（質の高い学力）
- ・さわやかな心、優しい心を持った人（豊かな人間性・社会性）
- ・強い意志を持って、人生を切り拓く人（意欲や情熱、健康な体）

成果と課題

前期・中期・後期を意識した指導や、学校行事での児童生徒相互の乗り入れの取組などにより、9年間を見通した自己実現力を育成し、「中1ギャップ」の解消に役立てることができた。

「ことばの学び」を推進させるために、さらに具体化、系統化し、学校全体のカリキュラムとして取り組んでいく必要がある。

今年度の重点

9年間を活かした自己実現の育成

～多様な他者の考えや思いを理解し、相手の意見を聴き、自分の考えを正確に伝える子どもの育成～

今年度の取組

- (1) 中学校ブロック小中一貫教育推進組織体制や計画・取組についての点検・評価の実施
小中で一つの組織と考え、打ち合わせ・職員会議・研修会を小中合同で行う。その中で、適切な小中一貫教育推進のために、教職員の情報交換と意思統一を確実にし、随時、計画・取組についての点検・評価を行っていく。
- (2) 中学校ブロック推進体制の充実
企画委員会、前期主任会、中後期主任会等の会議を設置し、ステージ毎の学習内容・生徒指導についての意見交換、指導方針の確認等を行っていく。その中で、小中一貫コーディネーターがパイプ役となり、前期・中後期主任会それぞれでの会議内容の共有化を図っていく。
- (3) 系統的・継続的な学習指導・生徒指導の充実
〈学習指導〉
教育課程編成における3学年部（4・3・2制）の促進と相互連携の研究や発達段階に応じた指導法の開発を行う。
〈生徒指導〉
9年間の継続的な生徒指導を進めるために、生徒指導部長、主任、学年主任を中心にした生徒指導を進める。課題を小中で共有化し、規範意識の確立と自尊感情の醸成を行う
- (4) 中学校ブロックにおける特色ある教育活動の展開
共に学び、共に活動できる児童生徒を目指して、異年齢集団活動を実施する。児童会、生徒会それぞれに独立した組織づくりではなく、学園会を組織して、小学生、中学生という枠組みを超えた学園の一員であるという意識を育む。
- (5) 家庭・地域社会との連携
育友会行事への教職員・部活動生徒の積極的な参加、地域懇談会への教職員の参加、親のための進路セミナーの開催を通して家庭・地域社会との連携を深める。
- (6) 9年間を通した自己実現力の育成～意欲的・主体的な「ことばの学び」を通して、質の高い学力を育成する。
ア 「ことばの学び」心と体を動かし、伝え合う力を高め、言語感覚を磨く指導の工夫。
イ 系統立てた学習指導における基礎学力の定着。
ウ 小中英語教育の拡充強化・高度化にむけた授業研究